

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670200447		
法人名	医療法人 真誠会		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	徳島県鳴門市大津町矢倉字五ノ越32-1		
自己評価作成日	平成27年12月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は静かな環境で周りは芋畑が広がり、のどかな雰囲気の中で生活している。家庭的な環境のもと、利用者が力を発揮し、安心して喜びと自身をもち生活できるよう、認知症ケアに対する情熱をもった施設長のもとケアに取り組んでいる。また地域との交流を推進し、老人会への入会や地域の自主防災組織への参加、保育園との合同行事、市の登録ボランティアの受け入れを行っている。施設の畑には地域の方の協力を得て、サツマイモを植え、秋には収穫祭を地域の方々をお誘いして行い、利用者様と共に芋掘り行事を楽しんでいる。2ヶ月毎の運営推進会議では、参加者と共に認知症ケアの向上と認知症の方々の地域との交流などの取り組みを発表したりして検討する機会としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、代表者や管理者、職員間で理念について話し合って見直しを行うなど、地域密着型サービスの意義と役割等について再確認する機会を設けている。また、ユニットごとに管理者を配置し、利用者や家族が相談しやすい環境整備や信頼関係の構築に努めている。利用者の一歩の楽しみである食事づくりは、食材の買い出しから調理や後片付けまでを利用者と職員で行っており、一人ひとりが食を通じた一連の作業に楽しく参画できるよう工夫している。地域との交流も活発に行っており、老人会や自主防災会活動への参加、近隣の保育所との交流、介護相談員やボランティアなどの受け入れを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。職員の入職時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、ミーティング時や関わりの振り返りの時にも理念に必ず触れ確認しあうようにしている。	代表者と職員で意見を出し合って理念を見直している。地域密着型サービスの意義を踏まえた理念となるよう検討している。理念を支援の原点として捉えて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の行事や、老人会の定例会へ利用者と一緒に参加し地域の方々との交流を図っている。また、散歩や買い物へ出掛け、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、野菜を頂いたりする間柄になり、施設の畑にサツマイモを植え、地域の方々をお誘いし収穫祭を行い、利用者と共に芋ほりを楽しんでいただいたりしている。	事業所として地域の清掃活動や花植えなどの行事に参加している。また、自主防災会や老人会に加入し地域の一人として活動している。利用者と職員で、保育所の運動会に参加したり、事業所の畑で地域住民や子どもたちとサツマイモの植え付けや収穫祭を楽しんだりして相互に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護実践者研修や看護学生・高校生・中学生の実習生の受け入れを積極的に行っている。また、老人会や運営推進会議、ボランティア受け入れ時には、認知症についてや支援の方法を話して理解していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現在ホームが取り組んでいる内容について報告し、アドバイスや質の向上のため双方向的な意見交換を行っている。また、前回の会議で取り上げられた検討事項やアドバイスについて、その経過を報告し、一つひとつ実績を積み上げていくようにしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族や民生委員、市担当者等の出席を得ている。利用者の状況や行事について報告し、出席者から意見や提案を得るなどしている。また、出された意見は職員間で話し合っって運営面に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員が月2回の頻度で訪問し、利用者との談話や相談、ケア現場の見学を行っている。年に2回鳴門市長寿介護課職員を含めた介護相談員報告会が開かれ、ホームの優れた点や改善してほしい点などのご意見をいただき、さらなるサービス向上に向けて取り組んでいる。また、市のボランティア事業の受入を行っている。	毎月、職員は市担当窓口を訪問して実績報告書を提出するなどしており、その際、事例等について協議している。また、市の介護相談員やボランティアを受け入れるなどして協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で開かれている研修会等に参加し、全職員は身体拘束によって利用者が受ける身体的、精神的弊害について、また、介護保険法にある禁止対象となる具体的な行為について十二分に理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。	職員は、身体拘束の廃止に関する研修会等を通じて、拘束の弊害を理解するようにしている。職員が気づいたことは職員間で共有している。会議を開催して話し合うこともあり、利用者の自由な暮らしを支援するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を読んだり、法人内の勉強会に参加したり、外部研修で学んだりしている。事業所では虐待には格別の注意を払い、また、自宅でも起こらないように留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに、書籍やリーフレットなど、関連資料を読み理解を深めるよう努めている。また、研修会への参加なども行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとって丁寧に説明し、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取り、医療連携体制の実際や退居も含めた事業所の対応可能な範囲などについて詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時や介護計画の説明時などに常に意見、不満、苦情、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望へは迅速に対応している。また玄関やリビングにご意見箱を設置し気軽に意見をいただけるようお願いしている。	日頃から、職員は利用者との関わりをなかで、一人ひとりの思いを把握するよう努めている。家族の来訪時には、職員から積極的に話しかけるよう努め、意見や意向を聞くようになっている。また、来訪の少ない家族には、電話や手紙等で意見を聞くようになっている。出された意向や提案は、職員間で協議したうえで運営面に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、職員からの率直な要望や意見、提案を聞き、法人の各事業所代表会議時等に、代表者と検討し職員の意見を反映させ質の向上に努めるようにしている。	管理者は、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、代表者は、職員一人ひとりと話し合う機会を設けており、出された意見や提案は法人内で検討したうえで運営面に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は管理者や職員個々が認知症ケアに取り組み、アドバイス、指導を行っている。また、心身が休めるよう休憩室を確保している。給与水準も同業の他事業所に負けないだけの水準にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週に開催している法人内の勉強会で日頃の取り組みを発表したり、他の部署の発表から学びを深めている。また外部の研修会や講演会に進んで参加し、参加できなかった職員へも資料や報告書を閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、実践者研修を積極的に受講し他施設実習で他事業所との相互訪問を見学や意見交換を行い、事業所以外の同業者の意見や経験を聞く機会を持っている。また、グループホーム協会徳島県支部の研修会への参加活動を通じて、同業者との豊富な交流機会がある。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット1	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、思いや不安を受け止め早く信頼関係を築けるよう、本人の長所、心の奥に仕舞っている大事な事柄(当法人では快のキーワードと呼んでいる)を見出す。また好きなこと、役割など見出すよう取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯についてご家族からゆっくり話を聞くようにし、ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合いをして受け止める努力をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、ホームとして可能な限り柔軟な対応を行い、必要に応じて他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや心の奥底にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしの中で今までご苦労して歩んでこられたことを尊敬の念を持って接し、共に支え合える関係作りに留意している。また、利用者の得意分野で力を発揮してもらいお互い様という気持ちや感謝するという関係性を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と利用者の日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人を同じ思いで一緒に支えていく関係を築くようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所を利用して、今までの生活の延長線上であるよう知人や友人等に会いに行ったり、訪問してもらっている。電話や手紙での連絡を取り持つ等、できるだけ途切れないようつながりを継続する支援をしている。	事業所では、利用者一人ひとりが馴染みの商店で買い物したり、家族と理髪店へ出かけたりすることができるよう支援している。利用者の友人や知人等の来訪も快く受け入れている。利用者や家族からの聞き取ったことに基づいて、本人の“思い出ノート”を作成するなどしており、馴染みの人や場所、関係の継続に留意した取り組みを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の仲の良し悪しに配慮し、利用者が孤立してしまわないようにみんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなどの支援している。また、長年培った人と上手に付き合う力、助け合う力、かばい合う力、調整力を発揮できるような支え合いを引き出している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方にも、面会に行き様子を伺ったり、入院退居された方のお見舞いや退院後の行き先の相談を受け助言をしたりしている。また、退居後もご家族の相談に応じたり、他所でご逝去された場合もご家族の了解を得て告別式に参列させていただいたりしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者を良く観察、対話し、言葉、表情などからその真意を推し測ったり、思いや希望を把握するように努めている。困難な場合は、別個に検討している。	日頃から職員は、利用者との関わりの中かで、一人ひとりとの信頼関係を大切にしつつ、思いや意向を把握するよう努めている。意思の把握が困難な方には、家族や関係者から情報を得るなどして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご親戚の面会時に生活歴やなじみの暮らし方、生活環境を聞いたり、ご本人との会話から聞いたエピソードを個々の思い出ノートとして書き留め、その人の快のキーワードをみつけるよう努め、職員で共有し日々の介護に生かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、生活・心理面の視点やできること、できないことの見極めを行うようにし、その人の全体像把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合いそれぞれの意見や考えを反映した、本人らしく生活できる介護計画を作成し、状態が変化した際には、期間が終了する前であっても検討見直しを行っている。	本人や家族の意向を尊重したうえで、主治医や関係者等の意見をもとに介護計画を作成している。利用者の心身の状態の変化に応じて、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日々のご本人の食事、水分量、排泄などの身体状況および本人の言葉、エピソード、ケアの実践・気づきなどの記録をし、情報を共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、近隣の保育園への働きかけを行い、合同行事を企画したりしている。また、消防署員に来ていただき消防の指導を受けたり、運営推進会議での地元民生委員、自治会役員の参加など地域の人や場を借りた取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望に合わせた医療機関受診に応じている。また、ご家族の都合に合わせた通院介助に努めており、法人内の医師をはじめとして、他の医療機関からのセカンドオピニオンが得られる環境を整えている。(特に精神科医)	事業所では、利用者一人ひとりのかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力を得たうえで専門医の受診も支援しているが、困難な場合には事業所の職員が同行するように配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の診療所が提携医療機関となっており、看護師とは気軽に相談できる関係ができており、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。診療所とは内線につながっており、連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報やかかりつけ医からは病状についての情報を医療機関に提供し、積極的に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況等を知り速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方、事業所の対応について、できるだけ早期から本人、家族、かかりつけ医師を含めケア関係者と話し合いを繰り返し、対応方針の共有を図っている。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。急変した場合は、すぐ対応していただけるよう医療機関とも密に連携を図り対応している。	契約時の段階で、本人や家族へ終末期に関する事業所の方針等を説明するとともに、意向等を確認している。関係者間で情報を共有し、チームで支援するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人の診療所の医師や看護師の迅速な協力を得られるよう緊急時の連絡体制を確立している。また、緊急対応時のマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。同法人の看護師の協力のもと、応急手当に関する方法を体験・習得するようしたり、市消防署で開催される普通救命講習を受講している職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのものと消防避難訓練と避難経路の確認を年2回と消火器の取り扱い訓練を2回行っている。地域の方に協力を呼びかけ、消防避難訓練を実施している。又、地域の自主防災組織に参加し、自治会への出席や地域の避難訓練に利用者と共に参加したりして、地域との協力体制を築くようにしている。	年2回、消防署や関係者の協力を得たうえで、地域住民の参加も得て避難訓練を実施している。また、事業所として地域の自主防災会に加入している。災害時に備えて物品の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助の必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけた一人ひとりの人格を尊重している。また、プライバシーの保護の徹底や個人情報の漏えい防止を事業所全体で行っている。	職員は、利用者への声掛けや誘導の方法等、一人ひとりの人格やプライバシーに配慮した支援に努めている。排泄や入浴支援を行う際には、特に気を付けるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活において些細なことでも本人が決める場面を作っており、また、言葉がなくとも入居者個々の思いや意図をくみ取り、ご本人が自分の意志で物事を決められるよう支えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、職員の都合に合わせた時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの状態に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重し、買物や散歩、カラオケ等積極的に個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援をし、特に行事等の際化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。洋服を一緒に買いに出掛けたり、本人のなじみの美容院で、希望にあわせたカットやパーマしてもらえよう、支援を行っている。職員が毛染めの手伝いをするがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物と一緒にいき、下ごしらえから盛り付けなど調理を職員と一緒にすることもあり、食後のお盆拭きや食器洗いなど利用者個々の力を活かしながら行っている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しい食事時間となるよう雰囲気づくりも大切にしている。	献立は法人の管理栄養士が作成しているが、調理は利用者と職員で行っている。利用者一人ひとりの力量に応じて、食材の買い出しや後片付けなどの役割を担ってもらっている。利用者と職員でテーブルを囲み、会話をしみつつ食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をチェック表に記入し、職員が情報を共有している。また、法人内の管理栄養士に、栄養バランスや一人ひとりの状態に合わせた食事内容等の専門的アドバイスももらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前には義歯の洗浄を行い、必要に応じて洗浄剤に浸すなど清潔の保持に努めている。歯科の訪問口腔ケアを導入し、歯科衛生士の指導のもと歯茎のマッサージなどの歯周病についての口腔ケアを行っている方もいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、尿意・便意のサインを敏感にとらえ、さりげなく声かけ誘導を行うことにより、トイレで排泄できるよう支援している。	職員は、利用者の排泄パターンの把握に努めている。一人ひとりの状況に応じて、さりげない声かけや誘導を行いつつ、トイレでの自立した排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録し、排便の有無を確認している。日頃から便秘にならないよう水分補給を行ったり、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また、家事活動や散歩、リハビリに通う等で身体を動かす機会を適度に設けるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に合わせて入浴できるように毎日準備し、利用者のその日の希望を確認し入っていただいている。入浴を拒む方には、声かけや対応の工夫をしたりして、支援している。また、同性での介助にも配慮している。	利用者一人ひとりの希望に応じた入浴を支援している。入浴を拒む方には、声かけのタイミングや職員を代えるなどでして、気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。個々の体調や表情などを考慮して、休息がとれるようにも支援している。また、寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりするなどで安心して眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが服用する薬の目的、副作用、用法や用量について理解し、確実に服薬できたか確認するようにしている。また、薬の処方などが変更された時には特に注意して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、食事作りや裁縫、畑仕事、掃除、書道や肩たたき、洗濯たたみなど役割や楽しみを発揮する場面を作っている。また、遠出の外出や地域の行事参加などの楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って日常的に畑仕事、散歩、買物、ドライブなど戸外へかけている。また、利用者の希望を踏まえ初詣や花見、空港へ飛行機を見にいったり季節ごとの外出行事を計画している。また、本人の希望をご家族に伝え、協力を得てお墓参りや遠方の親戚の家へ出かけたりされている。	職員は、利用者一人ひとりのその日の希望を把握したうえで、散歩や買い物、畑仕事等の外出を支援している。職員は利用者一人ひとりの希望や思いを受け止めるよう努め、また家族の協力も得たうえで出かけることができるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の協力を得て少額のお金を持っている方もいる。家族よりお金を預かり、事務所が管理している人でも、買い物時にはお金をお渡しし、自分で払っていただけるよう支援している。預かり金は、用途を控えておき毎月ご家族に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎの支援を行い、事務所の電話を使用してもらい、他の利用者さんに会話が聞こえないようにし電話の使用を支援している。手紙や電話を歓迎し、返事の手紙を出せるように支援したり、利用者の希望に応じて日常的に電話をしたり、手紙を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な音や光が入らないよう共用空間を整え、家庭的な雰囲気ができるよう配慮し、居心地の良さや活気ある生活ができるように配慮している。茶碗を洗う音やご飯の炊けるにおい、観葉植物や季節の花を飾り、五感の刺激や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。	共有空間はゆったりとしており、また明るく開放感がある。掃除も行き届いており、利用者のくつろぎの場所となっている。各テーブルに生花を置くなど、利用者が居心地良い暮らすことができるよう環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いてあり、気の合う人同士が語り合えるスペースを設けている。玄関先に設置したベンチでくつろいだりと、思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた家具や書道用具などを持ち込まれていたり、思い出のアルバムや湯飲みやカップ、本人が作った作品や花を飾ったりしている。据え付けのベッド等は個人の好みに合わせた配置にしている。	事業所では、居室に利用者の馴染みの物を持ち込んでもらっており、一人ひとりが居心地良く暮らすことができるよう配慮している。また、利用者によっては、行事の写真や作品を飾るなどしており、一人ひとりが安心して過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を考え、状況に合わせて、環境整備に努めている。状態が変わり新たな混乱や失敗が生じた時は、職員で話し合い、本人の不安・混乱材料を取り除き、自立支援につなげている		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。職員の入職時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、ミーティング時や関わりの振り返りの時にも理念に必ず触れ確認しあうようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の保育園の行事や、老人会の定例会へ利用者と一緒に参加し地域の方々との交流を図っている。また、散歩や買い物へ出掛け、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、野菜を頂いたりする間柄になり、施設の畑にサツマイモを植え、地域の方々をお誘いし収穫祭を行い、利用者と共に芋ほりを楽しんでいたたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護実践者研修や看護学生・高校生・中学生の実習生の受け入れを積極的に行っている。また、老人会や運営推進会議、ボランティア受け入れ時には、認知症についてや支援の方法を話して理解していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現在ホームが取り組んでいる内容について報告し、アドバイスや質の向上のため双方向的な意見交換を行っている。また、前回の会議で取り上げられた検討事項やアドバイスについて、その経過を報告し、一つひとつ実績を積み上げていくようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員が月2回の頻度で訪問し、利用者との談話や相談、ケア現場の見学を行っている。年に2回鳴門市長寿介護課職員を含めた介護相談員報告会が開かれ、ホームの優れた点や改善してほしい点などのご意見をいただき、さらなるサービス向上に向けて取り組んでいる。また、市のボランティア事業の受入を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で開かれている研修会等に参加し、全職員は身体拘束によって利用者が受ける身体的、精神的弊害について、また、介護保険法にある禁止対象となる具体的な行為について十二分に理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を読んだり、法人内の勉強会に参加したり、外部研修で学んだりしている。事業所では虐待には格別の注意を払い、また、自宅でも起こらないように留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに、書籍やリーフレットなど、関連資料を読み理解を深めるよう努めている。また、研修会への参加なども行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとって丁寧に説明し、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取り、医療連携体制の実際や退居も含めた事業所の対応可能な範囲などについて詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時や介護計画の説明時などに常に意見、不満、苦情、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望へは迅速に対応している。また玄関やリビングにご意見箱を設置し気軽に意見をいただけるようお願いしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、職員からの率直な要望や意見、提案を聞き、法人の各事業所代表会議時等に、代表者と検討し職員の意見を反映させ質の向上に努めるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は管理者や職員個々が認知症ケアに取り組み、アドバイス、指導を行っている。また、心身が休めるよう休憩室を確保している。給与水準も同業の他事業所に負けないだけの水準にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週に開催している法人内の勉強会で日頃の取り組みを発表したり、他の部署の発表から学びを深めている。また外部の研修会や講演会に進んで参加し、参加できなかった職員へも資料や報告書を閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、実践者研修を積極的に受講し他施設実習で他事業所との相互訪問をし見学や意見交換を行い、事業所以外の同業者の意見や経験を聞く機会を持っている。また、グループホーム協会徳島県支部の研修会への参加活動を通じて、同業者との豊富な交流機会がある。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、思いや不安を受け止め早く信頼関係を築けるよう、本人の長所、心の奥に仕舞っている大事な事柄(当法人では快のキーワードと呼んでいる)を見出す。また好きなこと、役割など見出すよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯についてご家族からゆっくり話しを聞くようにし、ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合いをして受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、ホームとして可能な限り柔軟な対応を行い、必要に応じて他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや心の奥底にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしの中で今までご苦労して歩んでこられたことを尊敬の念を持って接し、共に支え合える関係作りに留意している。また、利用者の得意分野で力を発揮してもらいお互い様という気持ちや感謝するという関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と利用者の日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人を同じ思いで一緒に支えていく関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所を利用して、今までの生活の延長線上であるよう知人や友人等に会いに行ったり、訪問してもらっている。電話や手紙での連絡を取り持つ等、できるだけ途切れないようつながりを継続する支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の仲の良し悪しに配慮し、利用者が孤立してしまわないようにみんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなどの支援している。また、長年培った人と上手付き合う力、助け合う力、かばい合う力、調整力を発揮できるような支え合いを引き出している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方にも、面会に行き様子を伺ったり、入院退居された方のお見舞いや退院後の行き先の相談を受け助言をしたりしている。また、退居後もご家族の相談に応じたり、他所でご逝去された場合もご家族の了解を得て告別式に参列させていただいたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者を良く観察、対話し、言葉、表情などからその真意を推し測ったり、思いや希望を把握するように努めている。困難な場合は、別個に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご親戚の面会時に生活歴やなじみの暮らし方、生活環境を聞いたり、ご本人との会話から聞いたエピソードを個々の思い出ノートとして書き留め、その人の快のキーワードをみつけるよう努め、職員で共有し日々の介護に生かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、生活・心理面の視点やできること、できないことの見極めを行うようにし、その人の全体像把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合いそれぞれの意見や考えを反映した、本人らしく生活できる介護計画を作成し、状態が変化した際には、期間が終了する前であっても検討見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日々のご本人の食事、水分量、排泄などの身体状況および本人の言葉、エピソード、ケアの実践・気づきなどの記録をし、情報を共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、近隣の保育園への働きかけを行い、合同行事を企画したりしている。また、消防署員に来ていただき消防の指導を受けたり、運営推進会議での地元民生委員、自治会役員の参加など地域の人や場を借りた取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望に合わせた医療機関受診に応じている。また、ご家族の都合に合わせた通院介助に努めており、法人内の医師をはじめとして、他の医療機関からのセカンドオピニオンが得られる環境を整えている。(特に精神科医)		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の診療所が提携医療機関となっており、看護師とは気軽に相談できる関係ができており、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。診療所とは内線でつながっており、連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報やかかりつけ医からは病状についての情報を医療機関に提供し、積極的に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況等を知り速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方、事業所の対応について、できるだけ早期から本人、家族、かかりつけ医師を含めケア関係者と話し合いを繰り返し、対応方針の共有を図っている。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。急変した場合は、すぐ対応していただけるよう医療機関とも密に連携を図り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人の診療所の医師や看護師の迅速な協力を得られるよう緊急時の連絡体制を確立している。また、緊急対応時のマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。同法人の看護師の協力のもと、応急手当に関する方法を体験・習得するようしたり、市消防署で開催される普通救命講習を受講している職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのものと消防避難訓練と避難経路の確認を年2回と消火器の取り扱い訓練を2回行っている。地域の方に協力を呼びかけ、消防避難訓練を実施している。又、地域の自主防災組織に参加し、自治会への出席や地域の避難訓練に利用者と共に参加したりして、地域との協力体制を築くようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助の必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけた一人ひとりの人格を尊重している。また、プライバシーの保護の徹底や個人情報の漏えい防止を事業所全体で行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活において些細なことでも本人が決める場面を作っており、また、言葉がなくとも入居者個々の思いや意図をくみ取り、ご本人が自分の意志で物事を決められるよう支えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、職員の都合に合わせた時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの状態に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重し、買物や散歩、カラオケ等積極的に個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援をし、特に行事等の際化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。洋服を一緒に買いに出掛けたり、本人のなじみの美容院で、希望にあわせたカットやパーマをしてもらえるよう、支援を行っている。職員が毛染めの手伝いをすることがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物と一緒に行き、下ごしらえから盛り付けなど調理を職員と一緒にすることもあり、食後のお盆拭きや食器洗いなど利用者個々の力を活かしながら行っている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しい食事時間となるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をチェック表に記入し、職員が情報を共有している。また、法人内の管理栄養士に、栄養バランスや一人ひとりの状態に合わせた食事内容等の専門的アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前には義歯の洗浄を行い、必要に応じて洗浄剤に浸すなど清潔の保持に努めている。歯科の訪問口腔ケアを導入し、歯科衛生士の指導のもと歯茎のマッサージなどの歯周病についての口腔ケアを行っている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、尿意・便意のサインを敏感にとらえ、さりげなく声かけ誘導を行うことにより、トイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録し、排便の有無を確認している。日頃から便秘にならないよう水分補給を行ったり、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また、家事活動や散歩、リハビリに通う等で身体を動かす機会を適度に設けるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせて入浴できるように毎日準備し、利用者のその日の希望を確認し入っていただいている。入浴を拒む方には、声かけや対応の工夫をしたりして、支援している。また、同性での介助にも配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。個々の体調や表情などを考慮して、休息がとれるようにも支援している。また、寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりするなどして安心して眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが服用する薬の目的、副作用、用法や用量について理解し、確実に服薬できたか確認するようにしている。また、薬の処方などが変更された時には特に注意して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、食事作りや裁縫、畑仕事、掃除、書道や肩たたき、洗濯たたみなど役割や楽しみを発揮する場面を作っている。また、遠出の外出や地域の行事参加などの楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って日常的に畑仕事、散歩、買物、ドライブなど戸外へでかけている。また、利用者の希望を踏まえ初詣や花見、空港へ飛行機を見にいったり季節ごとの外出行事を計画している。また、本人の希望をご家族に伝え、協力を得てお墓参りや遠方の親戚の家へ出かけたたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の協力を得て少額のお金を持っている方もいる。家族よりお金を預かり、事務所が管理している人でも、買い物時にはお金をお渡しし、自分で払っていただけるよう支援している。預かり金は、用途を控えておき毎月ご家族に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎの支援を行い、事務所の電話を使用してもらい、他の利用者さんに会話が聞こえないようにし電話の使用を支援している。手紙や電話を歓迎し、返事の手紙を出せるように支援したり、利用者の希望に応じて日常的に電話をしたり、手紙を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な音や光が入らないよう共用空間を整え、家庭的な雰囲気ができるよう配慮し、居心地の良さや活気ある生活ができるように配慮している。茶碗を洗う音やご飯の炊けるにおい、観葉植物や季節の花を飾り、五感の刺激や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いてあり、気の合う人同士が語り合えるスペースを設けている。玄関先に設置したベンチでくつろいだり、思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた家具や書道用具などを持ち込まれていたり、思い出のアルバムや湯飲みやカップ、本人が作った作品や花を飾ったりしている。据え付けのベッド等は個人の好みに合わせた配置にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を考え、状況に合わせて、環境整備に努めている。状態が変わり新たな混乱や失敗が生じた時は、職員で話し合い、本人の不安・混乱材料を取り除き、自立支援につなげている		